

寄宿舎便り



令和7年3月1日発行

第10号

文責 井野



本日卒業を迎えた高等部卒業生のみなさん、また、今月の14日に卒業を迎える小、中学部の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

寄宿舎で過ごされた日々はいかがでしたか。洗濯、掃除などの生活スキルが上達した人、時間を意識した生活ができるようになった人、仲間とのかけがえのない日々を過ごした人、思い浮かんだ光景はたくさんあるのではないかでしょうか。通学生にはない大変さもあったかと思いますが、それ以上に、喜び、楽しみ、充実感があり、今後のためになる経験ができたと思います。高等部卒業生は、それぞれこれまでと違った環境、人間関係の中での生活が始まると思います。自宅から離れる方もいると思いますが、寄宿舎での経験を生かして頑張ってほしいと思います。小、中学部を卒業されるみなさんは、中学部、高等部に進学しても頑張ってください。

保護者のみなさま、お子様のご卒業おめでとうございます。保護者の方々と一緒に成長を見守ることができ、職員一同うれしく思います。寄宿舎へのご理解、ご協力、本当にありがとうございました。

男子棟の様子

今年度の男子棟は小学部4年生から理療科専攻科2年生までの9人で過ごしました。部屋に遊びに来た小学生を優しい笑顔で相手してくれる高校生の姿は、寄宿舎のよき「お兄ちゃん」的存在であり、縦にも横にもつながりがある、今年の寄宿舎男子棟の象徴的な場面だなと思います。

今年度は男子棟からは4人の卒業生が寄宿舎を離れます。みんなと一緒に過ごした思い出を胸に新しい場所で活躍してほしいと思います。(本田)



女子棟の様子

今年度の女子棟は、『とにかく笑えれば アハハと笑えれば 1年間笑えれば』というキャッチフレーズのもと、毎日を笑顔で安心して過ごしながら、自立に向けできることを増やしてほしいという想いのもと、女子棟職員一丸となって支援、指導に取り組んできました。5人の舎生それぞれが一人でできることを増やし、さらに集団生活上必要なマナーを身につけ、お互いを思いやり、尊重しながら生活し、心から笑い合えた1年間だったように思います。

保護者の皆様には日頃からご協力いただき本当にありがとうございました。今回はこれまであまり紹介できなかった日常生活から、たくさん成長した姿を紹介し1年間の締めくくりにしたいと思います。(甲斐)



卒業生を囲む会

2月27日(木)に「卒業生を囲む会」を行いました。在舎生、職員からのお祝いメッセージ動画や歌のプレゼント、卒業生からのメッセージと、とても感動的な会になりました。一人一人の思いがつまった卒業生のメッセージを載せていくのでご覧ください。(井野)





【高等部卒業生】

この3年間、今思うと長いようで短かったような気もします。入舎してすぐは課題やすることがなく、勉強時間の19時30分から21時までは、ボーっとしていたのを覚えています。今まで楽しいことやめんどくさいことなど、いろいろありましたが、楽しい3年間になってよかったです。

【高等部卒業生】

私は、小学5年生の時から寄宿舎を利用していました。最初に寄宿舎に来た時、とても寄宿舎に泊まるのが楽しみでした。寄宿舎に来るきっかけは、寄宿舎の先生から誘われたことです。最初のころは洗濯物干しや布団を敷くことなど初めての経験がたくさんあり、とても難しかったです。先生方が助けてくださったときもありました。その結果、今では寄宿舎ではだいたいのことができるようになりました。在舎生のみなさんも今は大変なことがたくさんあるかもしれません、できるようになるまでくり返し頑張ってください。

【高等部卒業生】

この3年間、寄宿舎で過ごして楽しかったです。いろいろな行事に参加したり、役員として自分で行事を考えて企画したりすることができて良かったです。自分が企画した行事で、みんなが楽しんでくれたのもうれしかったです。学校とはまた違う気軽さ、楽しさがありました。生活の中で、洗濯掃除と自分で自分のことをする力が身につけられました。在舎生のみなさん、自立の力は寄宿舎にいないと培われないものなので、寄宿舎にいる間に頑張ってください。学校では違う学部と交流できる機会が少ないので、たくさん話をして交流を深めてください。

【高等部卒業生】

ぼくは、高校1年生から、3年間寄宿舎にいました。最初、親元を離れての生活は、とても緊張しました。寄宿舎で頑張ったことは、洗濯物をきれいにたたむことです。また、ぼくはあまり人と話すことが得意ではありませんでした。でも、少しずつ慣れてくると、友達や先生とも話すことができてよかったです。寄宿舎で学んだことをこれから的生活に生かして行きたいと思います。

【中学部卒業生】

私が寄宿舎生活で一番想い出に残っている活動は、双葉会副会長をした一年です。会長と力を合わせて行事を計画したり、司会としてみなさんの前に立って話したりすることが多かったので、自然と大きな声が出せるようになってきました。先輩方は、つらいことがあっても、いつも前を向いて笑顔で頑張っていました。その姿を見て、私も頑張らないといけないなあという気持ちになりました。私も、これから、いろいろなことに挑戦して頑張っていこうと思います。

【小学部卒業生】

私は4年生から寄宿舎に入り、最初は自分でできることができることが少なかったけれど、先生たちや先輩方のおかげで、今は一人でできることができました。私が寄宿舎で楽しかったのは、聾学校との交流でビンゴ大会をして聾学校の友達と仲良くできたことです。中学生になってもがんばります。





鬼退治～力を合わせて福を呼び込め～



1月27日(月)、聾学校舎生と一緒に豆まきをしました。今年度は交流イベントとして開催し、聾舎生と盲舎生の混合チームを3つ作り、的当てで競いました。的は、2体の鬼に付いた紙風船で、豆は野球ボール大の新聞紙できました。鬼は鳴子と鈴を持っており、音を鳴らして逃げるので、その音を頼りに投げたり、しっかり視覚で確認して投げたりと上手に的当てっていました。聾舎生も精一杯投げ、ゲームの途中にはチームで作戦を話し合うなど、学校の垣根を越えて会話が生まれていました。投げている人、応援している人、みんなの声が会場に広がり、時間を知らせる職員の声が届かないほど、盛り上がりました。感想でも「楽しかった!もっと聾舎生と話したい。来年度も一緒に豆まきがしたい。」と、嬉しい言葉がたくさん聞かれました。聾舎生からも同じ感想が多くあったと聾学校職員から聞きました。

両校での豆まきは、会場に笑顔が溢れ、みんなで力を合わせて寄宿舎に福を呼び込みました。(山平)

